

令和5年度 学校経営方針

令和 5年 4月 5日
あきる野市立御堂中学校
校長 多田 春美

あきる野市教育委員会スローガン

「人が育ち、人が輝くあきる野の教育」

ー「大人が手本のあきる野市」ー

あきる野市教育委員会は、人権尊重と社会貢献の精神を基調とし、あきる野市民憲章に則してすべての市民が豊かな自然や伝統・文化に誇りをもち、生涯を通じて学ぶことのできる生涯学習社会の実現を目指して教育行政を推進する。

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、自主・自律、真理探究の精神に富み、心豊かでたくましい生徒を育成するために、次の目標を掲げる
ー 自ら学び自ら考え実行する生徒 (自主)
ー 理想に向かって向上努力する生徒 (努力)
ー 美しい心たくましい体の生徒 (健康)

2 令和5年度の教育活動にあたって (めざす学校像)

共通事項

生徒、教員、保護者・地域が学校を大切にし、互いを尊重し、高め合い、誇りと思える学校

	生徒	教員	保護者	地域
目指す具体的な姿	自分自身の活動と御堂中の自慢を自信をもって語れる	生徒の様子について、職員室等で賞賛・承認する話ができる	子どもの日々の活動を支え、子どもの成長を共に喜べる	学校に関心を持ち、学校公開等で多く参観する
学校経営方針のポイント	多様な学びと体験の機会 安心・安全に過ごせる学校	生徒理解に基づく指導 一人一人の学びを保証	学校の状況を適切に発信 学校教育への積極的な参画	地域の教育力を活用 多様な体験学習と地域連携

3 令和5年度に重点的に取り組む内容

(1) 令和4年度までの教育実践に積み上げる教育活動を進める。

コロナ禍の3年間で教育活動は精選された。元に戻すのでは無く、大切にしたいことを明確にして、ブラッシュアップを進める。

(2) ウイズコロナ(コロナ禍からの転換)、全ての教育活動で実施を前提とした方策を検討する。

(3) チーム学校を意識した教育活動を進める。

チーム〇年〇組、チーム〇学年、チーム職員室、チーム御堂(保護者・地域等)

(4) 5つのワークを大切にしたい学校経営を継続する。

- ① ヘッドワーク(知識) それぞれが、必要な知識を身に付ける
- ② フットワーク(行動) それぞれが、まず動いて、その後考える
- ③ チームワーク(協働) おたがいが、他者を尊重し、支え合う
- ④ ネットワーク(人脈) おたがいが、知りうる人脈を共有する
- ⑤ ハートワーク(心づかい) おたがいが、働きやすい職場をつくる

(5) GIGAスクールタブレットの一層の利活用を図る。

授業場面以外でも、タブレットがあることが当たり前の教育活動を進める。

- ① eラーニングを朝学習の時間に実施する。(長期休業中の課題としても活用)
- ② 連絡黒板の代わりに teams の活用を進める。(欠席生徒も自宅で確認できる。)

(6) 40周年記念事業を完結する。

4 ともに考え、ともに実践する内容

(1) 御堂中の「良さ」を発信する

- ① 生徒が御堂中の良さを考え、児童会と生徒会の意見交換等、直接的な交流等を進める。
- ② ブログやホームページを活用して、保護者・地域に対して積極的に発信する。

(2) 令和の教育スタイルを考える

- ① 学習指導要領完全実施の趣旨を踏まえた授業のあり方を考える。
- ② 中教審答申「令和の日本型学校教育」を受け、「協働的な学び」と「個別最適な学び」のバランスを考えた授業改善を進める。
- ③ G I G Aスクール構想の生徒用タブレットを最大限に活用した教育活動を進める。

5 教育目標を達成するための取り組み方針

令和5年度に御堂中は開校41年目を迎える。未曾有の新型コロナウイルス感染症や令和の日本型教育の推進、G I G Aスクール構想等の教育課題に柔軟に対応し、本校の歴史と伝統を大切にし、「生徒、教員、保護者・地域が学校を大切にし、互いを尊重し、高め合い、誇りと思える学校」を目指し、教育目標を実現するための基本方針を以下に掲げ教育活動を進める。

(1) 「自ら学び、自ら考え実行する生徒」を育成するために

- ① 各教科では、個別最適な学びと協働的な学びのバランスを重視し、G I G Aタブレットなどの学習ツールを活かし、生徒が主体的に学習に取り組み、生きて働く学力の育成を目指す。
- ② 学習の基盤となる資質・能力である言語能力や情報活用能力の育成をとおして、生徒同士の学び合いの場面を基盤とした、他者と協働した探究活動を推進する。
- ③ 学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する教職員の資質向上のためのO J Tを推進する。

(2) 「理想に向かって向上努力する生徒」を育成するために

- ① 生徒同士が互いの多様性を認め合い、一人一人に最適な居場所と集団づくりを進め、不登校等の未然防止に努めるとともに、学校全体で組織的に連携と情報共有を進める。
- ② 市内外の地域と関連した教育活動を進め、伝統文化などに触れることで、地域を意識し、大切に考えた課題解決の意欲、態度、行動力等の育成を図る。
- ③ 生徒会活動を含めあらゆる機会環境問題に取り組むことで、地球規模での課題を考え、持続可能な社会の担い手となる生徒を育成する教育を推進する。

(3) 「美しい心、たくましい体をもつ生徒」を育成するために

- ① 道徳性、社会性、人権尊重の精神を育み、自分の大切さとともに他人の大切さを認める心を育むことで、「いじめゼロ」をめざす。
- ② 「特別の教科 道徳」の時間の充実を図り、各教科等との関連を考慮し、主体的に考え、他者の考えを交流する教育活動に取り組み、人権教育の基礎を培う。
- ③ 保健体育科の授業や部活動等をとおして、運動に親しむ態度を養い、運動の日常化を図るとともに、主体的に体力の向上や健康の保持増進に取り組む活動を推進する。

(4) 「社会に開かれた教育課程」を実現するために

- ① 小中一貫教育は、これまでの取組を踏まえ、合同研修会や授業参観、児童と生徒の交流場面をとおして、御堂中校区9年間を見通した適切な情報の共有を図る。
- ② コミュニティスクールへの移行を視野に入れ、学校と地域の情報共有、地域の学校教育への参画を進め、学校運営協議会設置に向けた地域との組織的な連携を進める。